

＜令和4年度 事業計画に対する園の主な自己評価＞

◆重点的に取り組む事業について	
(1) 保育の質の向上(子どもの最善の利益の保障のために)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間テーマを「育ちをつなげる環境」とし、保育アドバイザーの秋田喜代美先生のご指導を受ける。子どもの内面を適切に読み取る学びや子どもの主体的活動を支えるための学びをさらに深め、根拠に基づいた保育実践に取り組むとともに、保護者にわかりやすく発信する。</li> <li>保育の基本「子どもの最善の利益の保障」の内容について、第三者評価項目を基に学びを深め、保育実践を具体的にレビューする。更なる保育の質の向上を目指して組織全体で取り組み、年度後半の受審を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5月、9月、1月に秋田先生ご指導の研修を実施した。保育士間の対話によって様々な視点で気づきがあり、保育観を共有することができた。他のクラスの活動の様子などを知る機会にもなった。</li> <li>○6月、8月、10月に園内研修として第三者評価受審に向けた保育の振り返りを行った。1月には「子どもの内面の読み取り(と保育士の関わり方)」についての研修を行った。</li> <li>▲11月末に不適切な保育事案が発生し、改善に向けた取組について法人の対応を決定した。12月の園内研修で、子どもの人権の保障について、厚労省のガイドライン等に沿った保育の振り返りを行った。</li> <li>▲年度後半に目指していた第三者評価受審は見送ることとした。</li> </ul>
(2) 保護者支援	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「持参の取組」「セカンドステップ」等、保護者の子育て力を育むための当園の特徴的取り組みについて職員間で学びを深める。</li> <li>保育ICTシステムを活用し、保護者と園とがより良い形につながり、保育のねらいや内容を共有できるよう取り組む。</li> <li>理念の柱である「保護者に信頼される温かな支援」について再確認するため、面談技術の学びだけでなく、保護者支援の考え方、方法等について職員全体で学び、温かな支援の実践を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持参の取組について、9月の職員会議で現状や課題、エピソードなどの共有を行った。保護者に向けた掲示を作成して内容の共有をはかるなど各クラスで工夫が見られた。</li> <li>○セカンドステップについて、10月の職員会議で模擬レッスンを行うなどして、目的・内容の共有を行った。日常のレッスンに様々な保育士が関わりながら理解する機会を多く持ったため、職員間で目的や内容の共有がしやすかった。</li> <li>○保育ICTシステム:コドモンを6月から徐々に導入した。保育のねらいや内容、活動予定等を保護者と共有しやすくなった。</li> <li>○5月、12月の職員会議で「保護者対応について」の研修を実施した。様々な保育士が様々な視点で意見交換できるよう、グループ編成を工夫した。</li> </ul>

(3) 地域の子育て支援のさらなる充実	
<ul style="list-style-type: none"> <li>厚木市（家庭相談課・療育センター等）との連携を継続し、虐待防止に向け、育児困難感のある保護者の発見と支援に引き続き注力する。一時預かり事業と連携し、支援の必要な親子を丁寧に支援する。</li> <li>「子育て(療育)相談」の強化に引き続き取り組む。保健師や保育士の専門性を活かし、不安や悩みを抱えている保護者が「ほっと」できる場所、安心して相談できる場所となるよう環境を整える。社会情勢により子育て支援室が閉室となる場合でも、相談の窓口は継続し、いつでも相談できるよう努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で支援を必要とする家庭について、支援室担当の保健師が厚木市家庭相談課と連携しながら、取り組んだ。</li> <li>○子育て支援室での相談なども積極的に受け、食事面やトイレトレーニング、情緒面や発達面、健康や感染症に関する質問など、担当保健師や保育士等が日常的に傾聴したり必要な助言をしたりした。</li> <li>○病後児保育の利用者数はコロナ禍により減少傾向だったが徐々に回復しつつある。</li> <li>○コロナ禍ではあるが、感染予防に留意しながら育児講座等を定期的に開催し、支援につなげる機会とした。</li> </ul>
(4) 湘北短期大学保育学科と密接な連携を保ち、互恵的な協力関係を維持発展させる	
<p>1年生の保育ボランティア、2年生の保育実習等を積極的に受け入れ、湘北短期大学保育学科の保育士養成に協力する。令和3年度から実施している、副主任による実習の「中間振り返り会」を継続し、実習生の緊張や不安を和らげるとともに実習後半の目標を明確にするなど、充実した実習になることを目指し、保育士業務への興味関心を高めることに貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各職員が学生に温かな雰囲気で見守っており、職場に対して好印象を持って実習を終えてもらうことができた。</li> <li>○R4年度の保育ボランティア受け入れは、前期19名、後期28名だった。保育実習生は計10名だった。</li> <li>○12月に、園長が保育学科1年生に向けた特別講話を行い、パワーポイント等で園の様子を見せ、現場保育士からの助言や励ましを冊子にして伝えた。</li> <li>▲求人への応募数が少ない。</li> </ul>
その他の重点取組より	
(1) 安全管理	
<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故（食事、睡眠、水遊び）の予防について定期的に学びを深め、一人一人が主体的に考えて取り組む。</li> <li>睡眠時の仰向け寝は改善されつつあるが睡眠チェックの記入の遅れなど課題が残る。主任、副主任による定期的な確認などを実施し、事故予防に努める。</li> <li>消防計画が活用され始めたので、引き続き防災に対する意識を高められるよう取り組む。</li> <li>新型コロナウイルス感染症に関する最新の情報等を嘱託医・保健師に確認し、適切な予防方法を実施する。その他の感染症についても「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿った丁寧な予防に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「安全管理研修①重大事故予防（4月）」、「安全管理研修②心肺蘇生法・感染症対策（6月）」研修を年度当初に実施し、重大事故予防について意識を高めた。</li> <li>○乳幼児突然死症候群予防について、昼寝時に保育補助を配置して睡眠チェックを丁寧にできる環境を整えるなど工夫した。仰向け寝を徹底するなど各クラスで意識して取り組めた。</li> <li>○4月と9月に消防計画と避難確保計画について役割毎に内容の確認と打ち合わせを実施した。防災に関する定期テスト(4月・9月)を実施し、日常での予防に関すること、災害時の避難方法等を具体的に確認した。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症について、その都度最新の情報や通達等を確認し、保健師を中心とした感染予防対策に取り組んだ。</li> <li>▲陽性者発生による登園自粛要請の期間が複数回あった。厚木市保育課、嘱託医等と連携し、その都度指示を受けながら適切に対処し、保護者との速やかな情報共有も行った。</li> </ul>